

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191700046		
法人名	有限会社ササキ総合管理サービス		
事業所名	グループホームすえひろ温		
所在地	北海道瀬棚郡今金町字今金303-1		
自己評価作成日	令和2年1月20日	評価結果市町村受理日	令和2年7月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=0191700046-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和2年6月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・外靴をはかなくても、そのまま出られるテラスが自慢です。 ・手作りの木製椅子が置いてあり、中庭の花や野菜、畑が見えます。 ・テーブルを用意し、テラスで食事をする事もできます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホームすえひろ温」は今金町市街地の静かな住宅街に平成25年3月15日に開設した事業所です。木造の平屋造りで、玄関と事務所を中心に左右にユニットが分かれた造りになっており、玄関を出入りする人や中庭で寛ぐ利用者にも目が行き届くように配慮された設計になっています。職員は理念にもある笑顔を意識し、利用者の穏やかな生活を支えています。</p> <p>まもなく百歳を迎える利用者も多く、できることが限られてきている中でも、料理の下ごしらえや味見をしてもらうなど、役割をもって過ごしています。調理専門の職員による手作りの食卓には、地元の食材を使った料理が並び、地域の特産物である「今金男しゃくイモ」を使ったコロッケやいも餅など、慣れ親しんだ味を楽しんでいます。また、利用者の入居前からの習慣を大切に、居室にある位牌に毎朝供物を供える習慣が途切れないよう支援するなどしています。入浴も利用者の希望を尊重し、職員と話しながらゆっくりと湯船に浸かったり、湯上りに利用者の好きな飲み物を用意するなど、利用者が楽しく入浴できる工夫をしています。</p>

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念を職員会議で唱和し、共有し実践に努めている。 ・職員で作あげた理念であり、玄関にも掲示している。	開設時より「笑顔のある穏やかな生活を目指します」を理念とし、玄関に掲げると共に職員は自らのネームプレートの裏に記し、支援の拠り所としています。ユニット会議でも理念が介護の基本であることを確認して、実践に活かしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・夏祭りには地域の方やご家族に声をかけ、参加していただいている。 ・慰問にも来ていただいている。 ・町民文化祭への展示、秋祭りの山車の見学に行っている。	近隣住民が日頃から気軽に立ち寄ったり山菜や野菜などの差し入れなどの交流があります。町内の秋祭りには子供舞踊山車が事業所駐車場を訪れて、子供たちの舞う姿に利用者は目を細めて喜んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・温新聞を発行しホームでの様子を伝えている。 ・地域交流広場を開催し、地域の方にも参加していただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・行政、地域の方、ご家族の方にホームでの様子、状況を報告している。	運営推進会議には家族、地域包括支援センター、町内会、民生委員、消防団員、社会福祉協議会が出席し、年6回以上開催しています。事業所の運営や利用状況、研修会の報告を行うと共に、その内5回は身体拘束廃止検討会も兼ねて、情報交換や意見交換を行っています。議事録は家族にも送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・感染症対策、吐物処理講習等に参加し、職員で共有している。	町の担当者とは相談のある時や介護認定更新時に直接出向くなど、協力できる関係を築いています。また、介護認定調査のため保健師が訪れた際には情報交換をしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・研修会に参加し、職員会議等で報告を行っている。 ・夜間のみ防犯対策の為、玄関の施錠をしている。	事業所独自のマニュアルを作成し、職員がいつでも自由に閲覧できる場所に保管しています。運営推進会議の開催に合わせ、身体拘束廃止検討会を行い、結果を全職員に周知して、身体拘束をしないケアについて理解を深めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修会に参加し、職員会議等で報告し共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・研修等があれば参加したい。 ・以前、利用されていた方がいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・担当者が同席し説明をして理解を得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・日々の会話の中で思いをくみ取り、家族からは面会時や電話の際に意見や要望を伺い、反映するように努めている。	来訪や電話、運営推進会議への出席の際に、家族から要望を聴いています。また、アンケート調査を行い意見や要望を表出する機会を多く確保しています。検討した結果は運営に活かしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議、ユニット会議で意見交換を行っている。 ・代表者との個人面談が行われている。	管理者は日頃から職員とコミュニケーションをとり、家庭の事情で長期休暇を取得したい時や勤務時間調整が必要な時は相談に応じています。働きやすい職場環境作りを心がけ、離職率の低下に努めています。また、意見や要望の内容によっては、社長と協議し適切な対応をしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員不足だと感じている。 ・個人面談等で意見、相談を述べる機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修会に参加させていただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	・研修会に参加させていただいている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所時に本人の意向、要望を傾聴し、信頼関係を保てるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・事前面談を行っている。 ・面会時や電話等で伺ったりして、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・話し合いの中で優先順位を考えながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・出来ないことをサポートしながら、本人の持っている能力に合わせて対応している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族と信頼関係を築きながら、共に本人を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの理容院へ行ったりしている。	馴染みの理美容院で、好みのカットをしたり、ボランティアの美容師が定期的に事業所を訪問してくれるなど、馴染みの関係を継続しています。百歳近い利用者が多く、友人も減っている状況です。知人が季節の野菜を届けてくれるなど、交流が続いています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・体操等に職員が関わり、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・町で会った時など、挨拶や話をする機会がある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・センター方式を活用しユニット会議で話し合い、希望や意向の把握に努めている。	日々のさり気ない会話や仕草、振る舞いから、思いや希望を把握することに努めています。個人記録で職員が共有し、希望が叶うように努めています。その日、その時を大切に臨機応変に対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人やご家族との会話の中から把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・伝達ノートを活用して職員間での共有に努め、現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・センター方式を活用し、本人とご家族の要望を聞き、ユニット会議で話し合い作成している。	センター方式のアセスメントを活用して日々の状態を把握しています。介護計画のモニタリングを3か月毎に行い、カンファレンスで検討しています。計画は6か月を目途に更新しています。病気や身体状態の変化、新たな要望や意向があれば、検討を加えて現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個人記録と伝達ノートへ記入し情報共有することで、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・状況を見極めながら、様々な支援ができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・町民文化祭への展示、秋祭りの山車の見学、慰問の見学等を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・今金国保病院、今金診療所、八雲総合病院精神科の訪問診療を受けています。	かかりつけ医は本人と家族の希望を優先して決めています。急性期は通院をし、病状が安定すると協力医療機関から毎月1回の往診があります。協力医療機関とは24時間オンコール体制となっています。	医療との連携は行われていますが、認知症や誤嚥性肺炎などの予防にも効果があるとされる歯科との連携も利用者の健康作りの一助となります。訪問診療や歯科衛生士による、口腔ケアの充実が期待されます。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・体調が変化した時などにはその都度相談し、状況に応じて受診をしている。 ・訪問診療の時には同行してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・介護連絡書の提出。 ・都度、情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	・本人、家族、医療機関と相談しながら、支援に取り組んでいる。 ・看取り指針について、ご家族より同意書をいただいている。	重度化した場合やターミナルケアについては、契約時の家族アンケートを基に、事業所が出来る最大のケアについて十分説明し、同意を得ています。また、利用者の状態の変化に応じて、家族と医師、事業所が話し合い、最善の対応が出来るように取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・消防署の協力を得て、救命講習会に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。 ・非常食の備蓄をしています。	元年度はコロナ禍のため訓練の延期があり、火災想定で1回実施しています。消防署、地域住民とともに避難訓練を実施し、消防の総評を受け改善に努めています。災害対策マニュアルや防災計画を作成して、職員に周知すると共に、食料備蓄と非常用備品類点検簿に基づき、発電機、ランタン、乾電池などを用意しています。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・人格を尊重し、言葉遣い、声のトーンなどに気を付け対応している。 ・プライバシーの保持ができるよう支援している。	利用者の心地良い呼び方を最優先しています。殆どの利用者は「苗字」にさん付けで呼んでいます。本人の意向を踏まえ家族と相談して決めています。トイレや入浴など羞恥心の伴う介助はプライバシーやプライド損ねない様に十分注意して行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・自己決定できるよう、声掛けや手助けを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	・意思を尊重し、本人のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・馴染みの理容院へ行っている。 ・訪問カットも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・好き嫌いを把握し、代替えするなどして提供している。 ・食器ふきなどを手伝ってくれる時もあります。 	食事は地元の新鮮な旬の食材や家庭菜園で収穫した枝豆などを使用しています。季節を感じられるよう工夫し、職員も一緒に食卓を囲んでいます。利用者はジャガイモやとうきびの皮むき、味見などを担当しています。天気の良い日は中庭で食事をしてピクニック気分を味わい、出前も利用して食欲を高める工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事量等は個々に合わせて対応している。 ・水分チェック表を記入している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・起床時、毎食後に声かけをし介助しながら口腔内、義歯清掃を行っている。 		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の排泄パターンを把握しながら、声かけ誘導、促し等を行い支援している。 	昼夜ともにトイレでの排泄を心がけています。殆どの利用者は自立していますが、オムツを使用している場合でも排泄パターンを把握したり、様子を見て誘導しトイレで排泄出来るように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・排便状況、水分摂取量を把握し、医師、看護師に相談しながら、薬の調整を行っている。 		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・曜日を指定されている方もいます。 ・拒否の強いときは無理強いせず、本人に合わせてながら支援している。 	入浴時間や頻度は利用者の希望を優先しています。午前中や頻回な入浴にも応えています。湯船に浸りながら気に入った職員と唄ったりしています。拒否がある時は無理強いせず、声掛けを工夫したり、入浴後の楽しみに、好きな食べ物や飲み物を用意するなど、入浴が楽しくなるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ソファー、小上がり等、本人のペースに合わせて休息できるよう支援している。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・受診結果、薬の変更等は記録と伝達をし共有している。 ・誤薬のないよう、確認を徹底している。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々の生活歴等を把握し、本人の能力に合わせながら支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・夏場はテラスにて外気浴、ドライブ、花見に出かけている。 ・冬場は困難。	日光浴や外気浴は気分転換やストレス解消に大切な機会ととらえています。暖かい季節には、中庭で花壇を見たり、近所を散歩するなど、気軽な外出をしてしています。長時間の歩行が難しい利用者には、車いすを用意し、その日の体調に合った外出を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自己管理している方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・思いをメモにし、ご家族や職員に渡す方がいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感が出るよう壁飾りを工夫している。 ・室温にも気を付けている。 ・冬場は保湿タオルを施行している。	一日中程よく陽が入る、対面式台所と食堂、居間が一体となった広い空間は、高齢者に合わせた温度や湿度管理を行っています。居間に配置されたソファや移動式の畳ベンチを利用して小上がりを作り、その日の気分や好みに合わせて、思い思いの場所で寛げるように工夫をしています。事業所内の装飾は季節感を大切にしながら混乱を招かないよう、すっきりまとめています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファ、小上がり等を思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・馴染みの物を置いたり、写真を飾るなど工夫している。	居室にはベッドとロッカーが備え付けられています。使い慣れた家具を持ち込み、家族の写真を飾ったり、位牌を置くなど、大切なものを身近に感じられるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室、トイレはわかりやすいよう表示している。 ・手すり、浴槽滑り止めマット等、安全に生活できるよう配慮している。		